

医療機器開発へ韓国と協力 神戸の財団、第1弾はクッション輸入

2025/5/30 05:30

経済 医療



覚書を交わして握手する神戸国際医療交流財団の後藤章暢代表理事（右）と韓国・江原道の鄭光烈・経済副知事＝神戸市中央区港島中町6、神戸ポート...



医療分野での国際的な技術開発や人材育成などを支援する公益財団法人「神戸国際医療交流財団」（神戸市中央区）は29日、日韓共同でバイオヘルス産業の発展に取り組むため、韓国・江原道と覚書を交わした。事業化の第1弾として、韓国のベンチャー企業が手がける医療機器の輸入が決まった。

江原道は韓国北東部に位置し、同道にある原州市は韓国有数の医療機器産業の集積地となっている。ポートアイランド2期で医療産業都市を展開する神戸市は2016年から、同財団を通じて原州市の現地財団と交流を続けている。

今回、原州市に本社を置くベンチャー企業が、車いす利用者が褥瘡になるのを防ぐクッションを開発。クッションに内蔵されたセンサーが座り方などを感知し、クッション内の空気を自動的に調整して同じ場所に座圧がかかるのを防ぐようにした。神戸側の財団が日本向けの商品化に協力し、販売にめどがついたことから、神戸、原州両市の関係をさらに強化しようと、江原道の副知事らが来日した。

訪日団は28日に来神。翌29日、クッションが試験導入された病院などを視察し、神戸市内のホテルで覚書を交わした。今後、バイオヘルス産業の分野で情報を交換したり、共同事業を推進したりするほか、企業間ネットワークの形成に協力したりするという。

江原道の鄭光烈経済副知事は「クッションの輸出を機に、幅広く協力関係を強化したい」と述べ、神戸の財団の後藤章暢代表理事は「覚書の内容をしっかりと実行し、世界に発信していくのが最終目的」と話した。

クッションは医療機器販売の日伸メディカル（神戸市中央区）が近く取り扱いを始める見通し。（西井由比子）

医療機器開発へ韓国と協力 神戸の財団、第1弾はクッション輸入

2025/5/30 05:30

経済 医療



覚書を交わして握手する神戸国際医療交流財団の後藤章暢代表理事（右）と韓国・江原道の鄭光烈・経済副知事＝神戸市中央区港島中町6、神戸ポートピアホテル



[記事へ戻る](#)

医療機器開発へ韓国と協力 神戸の財団、第1弾はクッション輸入

2025/5/30 05:30

経済 医療



日本での商品化が決まった車いす利用者向けのクッション。内部の立方体部分に入った空気で座圧を調整する
＝神戸市中央区港島中町 6、神戸ポートピアホテル



[記事へ戻る](#)